

私の育てられ方*育て方

■ 連載 第9回

おおらかに見守り続ける
いい意味でアバウトな子育て。

UNDP(国連開発計画)親善大使としても活躍している紺野美沙子さん。その経験から感じえたこと、また自身の子育てについて伺いました。



のびのび育った少女時代。
将来の進路は自分の意志で。

三人姉妹のまん中、「2つ違いの姉には勉強を教えてもらったり、妹にはいじわるしたり(笑)」。両親は子どもたちに細かく干渉することもなく、のびのび育った。周囲の声に耳を傾ける素直な子。そんな少女が唯一、自分の強い意志で貫いてきたことがある。それは、

小学校のクラブ活動で出会った演劇。芽生えた興味はすすくと育ち、中学生になると近くの劇団に入団。まじめに演劇と向かい合う姿を見ていた周囲は、彼女が職業として女優を選んだ時その強い意志を信じ、なんの反対もしなかった。子育てにも影響を受けたUNDPの経験。

1998年よりUNDP親

紺野美沙子

Konno Misako

東京生まれ。NHK連続テレビ小説「虹を織る」のヒロイン役で人気を博す。女優として活躍する一方、UNDP親善大使として国際協力の分野でも活動中。2010年秋より、「紺野美沙子の朗読座」を主宰。定期的に公演を行う。

善大使を務める。いままでにカンボジアをはじめ、9つの国と地域を訪問した。「開発途上国は子たくさんで、三世代一緒に暮らしていることも多い。貧しいながらも助け合い、支え合っ

どちらがいいとはいえませんが、日本よりも家族、地域の絆を強く感じさせられます」。同時に思うところもある。「最近、日本でも中高年の人たちが昔の遊びや体験を子どもたちに教えるといった、地域の活動が増えてきました。失われかけて

きた人と人との絆を重んじる、そんな新しい社会を生まみだそうとする動きに、明るい兆しを感じますね」

親善大使は、途上国の現状を日本の子どもたちに伝える役割も担う。飲み水が近くにないこと、紛争、貧しさ等々。自分たちの暮らしと何が違うか比較しながら、イメージが浮かぶようにわかりやすく話せば、子どもたちは真剣に耳を傾ける。「みんなとても純粋。日本の子どもも途上国の子どもも違いはない。違うのは

周りの環境だけなんです」
家庭はいつでも子どもが安心して過ごせる場所に。

紺野さんは現在、高校1年生の息子の母親でもある。過干渉されることなく育ってきた自分の経験、途上国で貧しいながらも逞しく生きる子どもたちの姿から、子育てについてどんな想いを抱いているのか。「思春期の男の子に接したことがなかったたので、おもしろいですよ(笑)。親のいうことは全然聞きませんが、干渉を

嫌うのは自立し、成長した証と思う。いまは遠くから見守っていればいい。たまた、いつでも子どもが安心していられる場所をつくっておく。家庭が子どもを追い込む場所であってはいけないし、外では子どもだっていろいろあるはずだから。そんな家庭に、息子はたくさん友だちを連れてくる。心がけてきたのは、いい意味でアバウトな子育て。「学校、大好き！」と元気に出かける姿を見送りながら「おおらかに育ったかな」



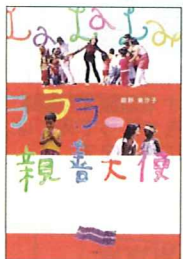
息子3歳の夏の思い出。千葉にて。



2010年夏。パキスタンにて。大地震で親を亡くした子どもたちと。



中学2年生。林間学校で信州へ。



● 読者プレゼント
紺野美沙子さんのUNDPでの活動をまとめたサイン入り書籍「ママは親善大使」小学館1470円(税込)を3名様にプレゼント。応募の詳細はフレンドページをご覧ください。